

メコン河流域における住民調査参加による 水辺の生物多様性保全促進

調査協力漁業者数 20人

調査技術習得者数 10人

活動の全体目標
に対する達成度 80%



カンボジア・総合ワークショップ

◆成果と工夫したポイント

●成果

カンボジアとベトナムで各5人の官学に属する技術職員が、生物多様性調査を独自で行える技術を習得した。また、調査地の漁業者と地方行政官の各10名ずつが、科学的に利用可能なデータの取得・記録法を習得した。

●工夫

生物多様性保全促進では官学民3者の情報共有が不可欠と考え、関係者の交流機会を頻繁に設けるようにした。

課題

メコン河流域の世界屈指の生物多様性は、現在急速な開発による脅威にさらされているが、保全策を実施する官学民の現地体制が弱く、調査技能を持つ人材が不足している。

目標

カンボジアとベトナムで、漁業資源や生物多様性を保全するための体制の基礎をつくる必要がある。本事業では政府（官）と大学・研究機関（学）と流域住民（民）が一体となって調査・活動する仕組みの構築を目指した。

活動内容

現地の大学・研究機関には、生物多様性と漁業資源の管理に資する調査方法と、分析手法の技術移転を行い、技術者の技能向上に取り組んだ。政府機関には本事業の調査活動とワークショップへの参加を促し、科学的データに基づく政策の策定を進言した。漁業者には、漁業資源と生物多様性保全の直接的な実施者であるという自負を持ち、調査チームの一翼を担ってもらうとともに、各地のワークショップに参加していただいた。



ベトナム・ステークホルダー
ワークショップ

達成できなかったこと

カンボジアの魚類図鑑を事業実施期間内に完成できなかった。これは、担当者の多岐に及ぶ業務量を過少に見積もったことによる。現地語翻訳も多大な労力と時間が必要であった。

今後の展望

各政府が予算措置を講じれば、本事業で技術を習得した官学民が主導して、同様の調査を継続することができる。